



営農NEWS



半促成スイカ栽培での病害虫発生に注意しましょう

ハウス半促成スイカ栽培では、交配～果実肥大の時期に入り、品質の優れたスイカ生産に向けて、今後ともハウス内の適切な温度や土壌水分の管理などが重要になるとともに、茎葉に発生する病害虫にも十分な注意が必要となります。

茎葉に発生する主な病害虫として、つる枯病、炭疽病、菌核病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類などがあります。各病害は、いずれも多湿条件や曇雨天が続くと多発生しやすくなります。また、害虫のアブラムシやハダニ類は、高温で乾燥した条件を好み、ハウス内や周辺の寄生植物から移動してきて増殖します。

スイカの茎葉が繁茂し、株元や葉裏などの観察がしにくくなってきますが、管理作業の際などには出来るだけ丁寧に周囲を観察し、病害虫の早期発見と発生初期の防除に努めてください。

【防除対策のポイント】

- 1) ハウス開口部の開閉等による通風や換気、適正な土壌水分の管理などに努め、また、敷きワラやマルチなどをして、雨滴や灌水による跳ね上がりや直接茎葉や果実にあたらないようにしましょう。
- 2) 下葉や葉の込み合っている場所の葉裏などを丁寧に観察して、病害虫の早期発見に努めましょう。
- 3) 病害虫の発生を確認したら、必要に応じて早期防除に努めてください。薬剤散布の場合は、晴天の日を選んで、夕方までには薬液が乾くような時間帯に、十分量の薬液で葉裏や下葉にもよくかかるよう丁寧に行うことが重要です。なお、収穫前日数に注意して、薬剤を選択してください。
- 4) 薬剤耐性菌や抵抗性害虫の発生を抑制するため、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。

表 1 スイカ生育中の つる枯病、炭疽病、菌核病、うどんこ病の主な防除薬剤（平成 29 年 3 月 6 日現在）

対象病害				薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
つる枯病	炭疽病	菌核病	うどんこ病			
○	○	○	○	ベルコートフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
○	○			ペンコゼブ水和剤	400~600 倍	収穫 7 日前まで / 7 回以内
	○			ダコニール 1000	700 倍	収穫 3 日前まで / 5 回以内
○					700~1,000 倍	
○	○		○	ストロビーフロアブル	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
		○		シグナムWDG	1,500 倍	収穫前日まで / 3 回以内
○	○		○		1,500~2,000 倍	
			○	ポリバリン水和剤	1,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
○	○		○		1,000~2,000 倍	
○	○		○	スコア顆粒水和剤	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
○		○		ロブラール水和剤	1,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
	○	○		トップジンM水和剤	1,500~2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内
		○		セイビアーフロアブル 20	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
			○	ガッテン乳剤	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内

表 2 スイカ生育中のアブラムシ類、ハダニ類、ミナミキイロアザミウマの主な防除薬剤（平成 29 年 3 月 6 日現在）

対象害虫			薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
アブラムシ類	ハダニ類	ミナミキイロアザミウマ			
○	○	○ (アザミウマ類登録)	モベントフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
		○	ダントツ水溶剤	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
○				2,000~4,000 倍	
		○ (アザミウマ類登録)	ハチハチフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
○				1,000~2,000 倍	
○			ウララDF	2,000~4,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
	○		マイトコーネフロアブル	1,000 倍	収穫前日まで / 1 回
	○		カネマイトフロアブル	1,000~1,500 倍	収穫前日まで / 1 回
	○		コテツフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
		○		4,000 倍	
	○	○ (アザミウマ類登録)	アグリメック	500~1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※ JA 全農いばらきホームページでもご覧になれます。

